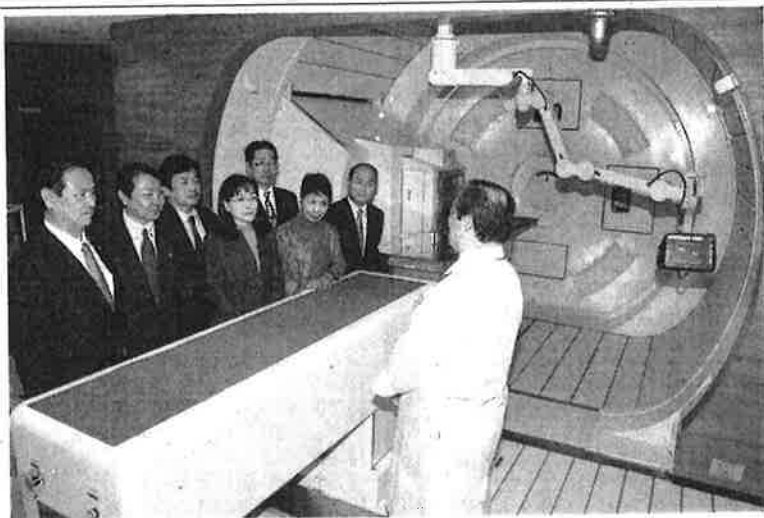


2014年(平成26年)2月10日(月曜日)

体に優しいがん治療へ

党市議団が最先端技術を視察 経済負担の軽減策も推進

名古屋市



名古屋市立西部医療センターが運営する「名古屋陽子線治療センター」で今年1月か

ら、がん細胞を点で塗りつぶすように陽子線(放射線の一種)を照射する最先端技術「スポットスキヤニング照射」による治療が国内で初めて行えるようになった。

公明党名古屋市議団(福田誠治団長)はこのほど、同センターを

スポットスキヤニング照射の治療室を視察する党名古屋市議団(左側7人)

視察し、溝江純悦センター長らから説明を受けた。福田団長、馬場規子、三輪芳裕、木下優、長谷川由美子、中村満、佐藤健一の各市議が参加した。

同センターは昨年2月に開設され、東海3県では初の陽子線がん治療施設となる。スポットスキヤニングは、がん病巣を数千のスポットに分けて、その一つ一つを正確に照射する方法。これにより、がんの形状に対応した照射を実現し、正常な細胞の損傷をさらに低く抑え、体に優しいがん治療が可能に。

従来の照射法は、患者ごとのがんの形状に合わせた型を製作する必要があった。溝江センター長は、この最新技術を導入したことによって、「がん形状を製作する工程がなくなり、効率が上がった」と語っていた。

公明党名古屋市議団は、がん対策を積極的に推進。このうち、高額に上る陽子線治療については馬場市議が2009年2月定例会の代表質問などで取り上げ、市民にとって利用しやすいように患者負担の軽減策を訴え、ともに、市議団の予算要望でも要望してきた。

市はこれを受け、陽子線治療の患者支援策として、名古屋市に1年以上在住の住民を対象に、①定額減免(20万円) ②利子補給制度

を創設している。党市議団は今後も、患者負担の軽減策について、さらなる拡充を要望していくこととしている。

市はこれを受け、陽子線治療の患者支援策として、名古屋市に1年以上在住の住民を対象に、①定額減免(20万円) ②利子補給制度